



学区から2名ずつ、45名で若手委員会を構成している。役割は次の4点である。①各委員会のサポート ②活動がマンネリ化しないようにプランを出す ③各委員会の論議に参加する ④クラブ活動の活性化を図る
 毎回100名、150名が参加するウォーキング行事では、体育委員と協力してコースの企画立案から下見もして実施している。市、区、学区の各老連行事に積極的に参加して、若手高齢者の参加も得られるように企画

若手高齢者に照準を合わせて企画立案

京都市下京区シルバークラブ連合会・若手委員会（平成17年設立）

ンド・ゴルフ、ボウリングや輪投げなどの各大会を開催し、最近では男子の料理教室を開くなど、年齢を超えて参加できるように企画実施している。



自然体験研修

- ①あさひの森に入り隊（自然を体感する）
- ②軽スポーツやり隊（健康吹き矢など）
- ③あさひ発お出かけ隊（見聞を広める）
- ④あさひの写真撮り隊（記録、笑顔を残す）
- ⑤あさひの学び隊（脳の活性化、好奇心で学ぶ）

五つの活動隊で集い、楽しむ

山形県鶴岡市老連朝日支部・青年部（平成19年設立）

66歳までによる青年部の活動は、五つの隊に分かれている。会員は当初25名から50名になった。農業や孫の子守りなどで多忙のため、参加は無理しないことが前提。老人体育大会では裏方として手伝いもしている。

目標は仲間づくり
 ……
市区町村老連 若手委員会の組織と活動

静岡県沼津市老連・若手委員会（平成20年設立）

市老連各部門に参画。車いす救援隊も

各支部推薦14名による若手委員会では、まず老人クラブの方向について役員会に提言をし、愛称「すこやか沼津」を設けることとした。高齢者作品展の準備をはじめ、各部門の活動に若手委員が参画している。また会員増加を目標に、若手委員が所属クラブで活動した結果20%以上の増加をみた。現在、会員加入促進委員会の立ち上げを計画中である。

アンケートでは若い人ほど地域活動への参加意欲が高い。今年度から車いすの点検、調整、清掃をする「車いす救援隊」を立ち上げ、「あ



立案することを心がけている。

山口県山口市老連小郡支部・若手部会（平成20年設立）

若手の声を活動に反映させる

若手部会は、単位クラブから選出された若手代表者26名で構成。若手の声を執行部にあげること、マンネリ化の打破、意識改革の推進など、将来を見据えた行動の一步として発足した。

具体的には次の事業を実施している。①若手リーダー養成研修会 ②若手代表者会議「テーマを設けて」「一人一言発言会」を呼びかけ、活発になった



小さな旅クラブ「トロッコ列車で紅葉狩り」

③仲間づくりのための資料配布「行政の実施した「地区別高齢者の実態調査」結果を整理、説明を加えた ④新たな同好会づくりに向けたアンケートの実施と、同好会会員の募集」新たに三つの同好会（小さな旅、料理、パソコン）を立ち上げ、計25になった。

りがとう」の言葉をもらいながらがんばっている。まず一步を踏み出す、そして若手委員の活動でクラブを明るくしたい。

岐阜県羽島市老連・盛年部（平成19年設立）

パソコン教室、美濃菊づくり講座

情報の共有のためには通信紙が重要であることから、最初にパソコン教室を計画した。市内10町老連ごとに、6人1グループ、8回の講習を開催している。また、市の花である美濃菊をつくる講座を開き、市の美濃菊展へ出展しているほか、玄関先や庭で癒しの空間を提供して、会員パワーの周知にもつながっている。

盛年部は75歳までの会員で組織している。各町老連では、盛年部が主体となってグラウ



福岡県中間市老連・盛年部（平成20年設立）

積極的に加入促進

会員の増加、クラブ解散の防止、後継者の育成という三つを目的に、男女各6名計12名による盛年部を設立した。毎月部会を開催して協議を重ね、当初の2年間は会員減少の原因を分析した。

3年目から行動に入り、まず市老連の紹介チラシを作成した。老人クラブが特集で掲載された市の広報紙と共に配布して、老人クラブのPRと加入促進活動に力を入れている。また、市内全戸に毎月配布されるイベントホールの機関紙の広告欄に、市老連行事を掲載して、老人クラブの宣伝に努めている。



市の広報紙「なかま」と共に配布するチラシ